

雲仙普賢岳噴火災害から30年 地震保険での支払額は12億円

1990年11月17日に噴火を開始した雲仙普賢岳では、1991年6月の噴火活動による大火砕流が発生し43名の人命を失いました。1996年6月の噴火活動の終息宣言まで噴火災害は長期間に及びました。

地震保険では247件、12億円の保険金をお支払いし、噴火災害による地震保険のお支払いとしては現在も過去最大規模となっています。

この噴火災害の記憶を風化させることなく、今後も地震・噴火・津波の備えとして地震保険が生活再建の力になることをお伝えしてまいります。

雲仙普賢岳噴火の地震保険再保険金支払い状況

2020年3月末現在

	再保険金	
	証券件数	支払再保険金
雲仙普賢岳噴火※	247件	1,288百万円

※地震保険では1991年6月から1994年7月までの噴火災害についてお支払いしました。

これまでの噴火災害での地震保険再保険金支払い状況（上位3噴火災害）

2020年3月末現在

	再保険金	
	証券件数	支払再保険金
雲仙普賢岳噴火	247件	1,288百万円
三宅島噴火（2000年6月26日）	135件	477百万円
平成12年有珠山噴火（2000年3月29日）	328件	450百万円

- ・地震保険は地震等による被災者の生活の安定に寄与することを目的として、政府と民間損害保険会社が共同して運営する保険です。

以上